

東京都・三宅村・御蔵島村合同総合防災訓練 (平成 27 年度)

場所:三宅村及び御蔵島村全域、三宅村役場臨時庁舎、御蔵島村小中学校など

日時:平成 27 年 10 月 28 日(水)

平成 27 年度 東京都・三宅村・御蔵島村合同総合防災訓練の実施について

東京都は、三宅村・御蔵島村と合同で下記のとおり総合防災訓練を実施しましたので、お知らせします。

1 訓練概要

訓練名

平成 27 年度東京都・三宅村・御蔵島村合同総合防災訓練

目的

海を隔てた島しょ地域において、地震及び地震に伴う津波、土砂崩れ、火山噴火などの大規模災害が発生した際の被害を最小限に抑えるため、地元における自助・共助体制の確立並びに迅速な避難・誘導等の実践的訓練を実施した。

実施日時

平成 27 年 10 月 28 日(水曜日)

午前 8 時から午後 2 時 30 分まで

主な会場

三宅村及び御蔵島村全域、三宅村役場臨時庁舎駐車場、御蔵島村小中学校など

特徴

相模トラフを震源とした大規模な地震に伴う津波発生を想定した対応訓練、南海トラフを震源とした大規模な地震及び三宅島近海での群発地震による被害の対応訓練を実施する。

主な訓練実施内容

(1) 三宅村及び御蔵島村全域

地震による津波の発生を想定した高所への避難、村役場による避難所への避難者誘導

(津波被害が想定されない地域においては風水害による避難行動を実施)

(2) 三宅村役場臨時庁舎

関係機関が連携した倒壊家屋等からの救出・救助、ヘリによる部隊投入・ホイスト救助、医療救護班によるトリ

アージ等の初期医療救護活動、電気・水道・通信等ライフラインの応急復旧、展示・体験ブース出展、炊き出し など

(3) 御蔵島村小中学校

展示・体験ブース出展、炊き出し など

(4) 三宅島空港、三宅村ヘリポート、御蔵島村ヘリポート

空路を活用した部隊投入、ヘリによる緊急支援物資輸送 など

(5) 阿古漁港(鑛が浜港)・伊ヶ谷港

ヘリ及び船舶による海難救助、船舶による物資輸送、船舶による火山噴火避難 など

(6) 伊豆地区

展示・体験ブース出展

(7) 三宅村役場、御蔵島村役場

三宅村災害対策本部、御蔵島村災害対策本部の設置

平成 27 年度 東京都・三宅村・御蔵島村合同総合防災訓練の様子

東京都は、平成 27 年 10 月 28 日、三宅村・御蔵島村と合同で、相模トラフを震源とした大規模な地震に伴う津波発生を想定した対応訓練、南海トラフを震源とした大規模な地震及び三宅島近海での群発地震による被害の対応訓練を実施しました。

1 実施規模

参加機関(団体):約 30 機関(団体)

参加人員:約 1,800 名

2 三宅村避難誘導訓練

地震並びに津波時等における総合的な避難訓練と、火山噴火避難訓練を併せて行い、三宅村及び防災関係機関並びに住民がとるべき防災処置を実践し、地震災害、津波災害、火山噴火災害に対応した防災対策の習熟と防災関係機関相互の協力連携体制の確立を図りました。



避難経路を歩く中高生



火山噴火を想定した全島避難

3 御蔵島村避難誘導訓練

津波時における避難訓練等総合的な避難訓練を行うことにより、御蔵島村及び防災関係機関並びに住民がとるべき防災処置を実践し、津波災害に対応した防災対策の習熟と防災関係機関相互の協力連携体制の確立を図りました。



御蔵島小中学校へ避難する住民



御蔵島小中学校に到着

4 本部審議訓練

三宅村地域防災計画では、被害状況の把握等を目的に、発災後ただちに災害対策本部を設置することになっています。今回訓練では、地震の発生により津波が発生したとの想定のもと、ただちに関係機関の災害対策要員、連絡員が参集するなどして、三宅村内に災害対策本部を設置しました。三宅村災害対策本部長（村長）からの被害状況等の報告、各防災機関からの現状が報告され、今後の対応方針について審議し、本部長からの指示の伝達がなされました。



本部審議の様子

5 部隊投入訓練

海を隔てた島しょ地域における災害時には、各防災機関の人員、車両や資機材等を、どのような手段を用いて、そしていかに迅速に被災地に派遣するかが大きなポイントとなります。

今回の訓練では、航空自衛隊入間基地所属のヘリコプター「CH-47」により、陸上自衛隊、警視庁、東京消防庁の各機関の救助部隊（先遣隊としてのバイク4台含む）を、発災後に関東地方から搬送したという想定のもと、三宅島空港に投入しました。

ここで投入された部隊は、三宅村のマイクロバスを活用し、三宅村役場臨時庁舎で実施する救出救助訓練に投入され、救出・救助活動を展開しました。



部隊投入（隊員進出）



各部隊整列

6 住民による自助・共助訓練

大規模な地震が発生すると、多くの建物が倒壊し、大勢の人々が建物の下敷きになる事態も想定されます。こうした際には、公的救助機関が到着するまでの間に、住民同士が互いに助け合う共助の活動が重要となります。

今回訓練では、三宅村消防本部及び消防団員の指導により、地元高校生が訓練員として参加し、身近な資機材（ジャッキ、物干し竿等）を使用した救出救助訓練、応急措置訓練等を実施しました。



三角巾等による応急措置



負傷者救出救助

7 救出救助訓練

訓練会場である村役場臨時庁舎駐車場では、多数の家屋倒壊が発生し、建物内に多数の負傷者取り残されている事態を想定し、島内の消防団・消防本部に加え、島外からの警察・消防・自衛隊といった救助機関による救出救助活動が展開されました。



消防団による救助



三宅村消防本部の活動



バイク部隊の進出



バイク部隊による消火活動



ヘリ投入部隊に対する任務付与



救助犬による捜索活動



負傷者救助



家屋への進入



家屋への進入



延焼阻止訓練



ホイスト救助



ホイスト救助

8 海難救助訓練

わが国は四方を海に囲まれていることから、常に津波による危険にさらされており、東日本大震災の際にも、多くの尊い命が津波により奪われました。

今回の東京都・三宅村・御蔵島村合同総合防災訓練では、津波により多数の村民・観光客が阿古漁港（鑄が浜）沖合いにさらわれたとの想定のもと、警視庁・東京消防庁・海上自衛隊・海上保安庁の4機関が連携して漂流者を捜索・救助する訓練を実施しました。



警視庁による救命索発射銃を活用した漂流者救助



東京消防庁による水上バイク・ヘリコプターを活用した漂流者救助



多用途支援艦「えんしゅう」搭載の複合型作業艇による救助



警視庁警備艇による救助及び海上保安庁巡視艇による警戒活動

9 医療救護班活動訓練

島しょにおける災害発生時には、医療従事者による公助のほか、住民自身による自助・共助も含めた医療救護活動が不可欠となります。今回の訓練では、島内にて震度5強の地震及び土砂災害が発生し、相当数の負傷者が発生・救出され、島内の阿古体育館に避難所医療救護所を開設したとの想定のもと、実施しました。



一次トリアージ



二次トリアージ



救急車搬送



三宅村中央診療所での傷病者受入れ



担架搬送



応急手当講習

10 展示・体験、応急復旧訓練

今回訓練では、三宅村役場臨時庁舎・御蔵島村小中学校の2会場にて、防災関係機関による展示・体験ブースの出展、特殊車両の展示、ライフライン施設の応急復旧の実演を実施しました。各防災機関により、災害対策に向けた取り組みの紹介、災害時における情報通信手段の体験、初期消火や応急救護講習等を行い、訓練参加者に対して幅広く防災知識に関する普及・啓発を行いました。

普段、防災機関とのかかわりが少ない島民に対して防災への取り組みを紹介する数少ない機会であり、島民と防災機関の双方にとって有益な機会となりました。



初期消火体験



応急救護講習



展示ブース出展



特殊車両展示



応急給水訓練



見学者用テント



放水体験



地震動シミュレーター

11 炊出し訓練

三宅村役場臨時庁舎・御蔵島村小中学校の2会場にてカレー・五目御飯の炊出しを実施し、ご来場頂いた皆様へ配食しました。



陸上自衛隊によるカレー調理



配食の様子



日本赤十字社・中学生による五目御飯調理の様子



おみやげの配布

12 物資搬送訓練

今回訓練では、島しょ部を襲った地震・津波により、三宅島・御蔵島に甚大な被害が生じているとの想定のもと、支援物資の搬送に取り組みました。

内陸部においては、都備蓄倉庫より供出した支援物資を、東京都トラック協会が辰巳埠頭まで搬送しました。また、災害時支援協定に基づき、東京都生協連が支援物資を辰巳埠頭へ搬送したほか、海上自衛隊横須賀地方総監部へもこれを搬送しました。

このようにして搬送された支援物資は、東海汽船及び海上自衛隊の協力のもと、三宅島へ船舶により海上輸送されたほか、在日米陸・海・空の3軍が訓練参加し、三宅島空港へヘリによる支援物資の空輸を実施しました。



在日米軍による支援物資の空輸